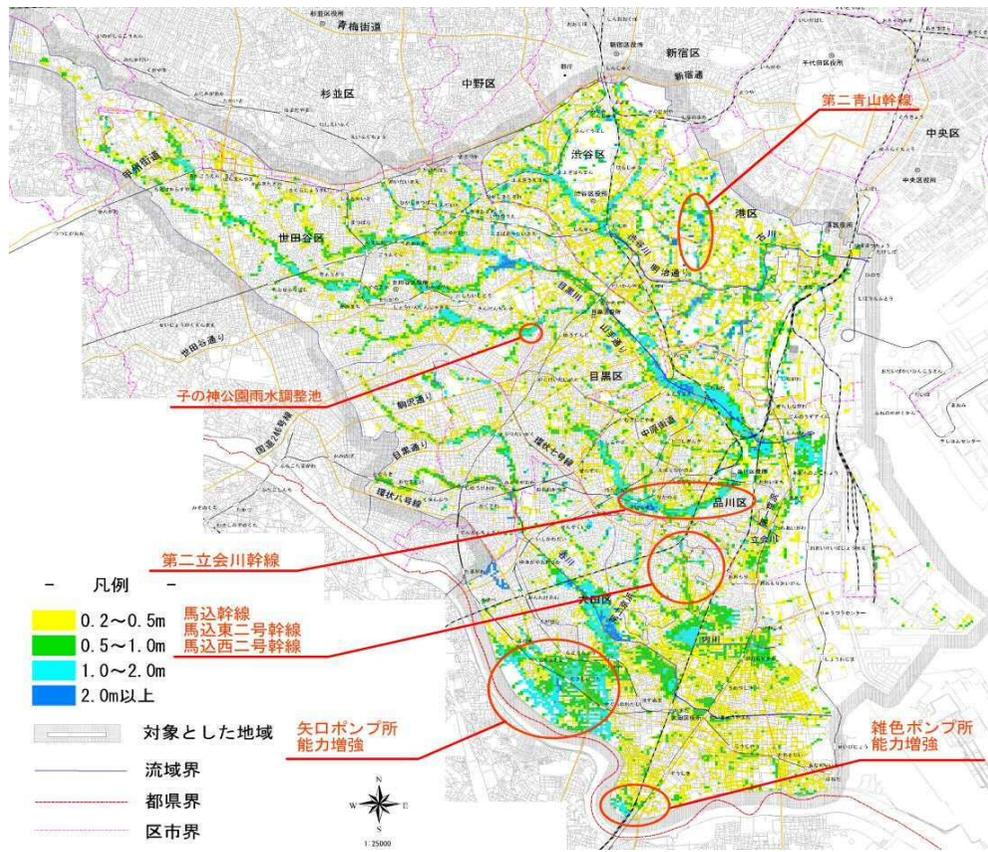


城南地区河川流域浸水予想区域図

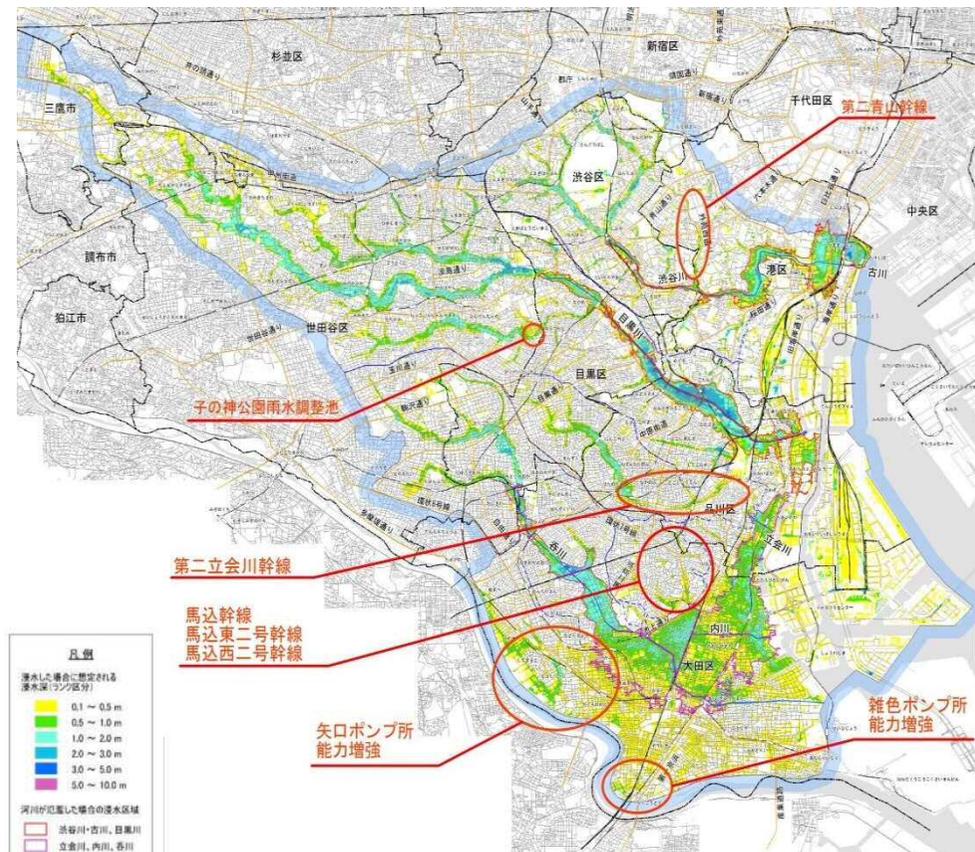
赤字：整備が進んだ施設の内容

赤丸：浸水面積が減少している代表的な地域

【改定前】 平成16年5月公表、平成19年7月一部修正
対象降雨：東海豪雨(1時間114mm)



【改定後】 平成30年12月公表
対象降雨：想定最大規模降雨(1時間153mm)



改定前の浸水予想区域図は、平成14年度の施設状況を反映して作成し、改定図は平成29年度の施設状況を反映して作成しています。

この間、下水道では、合計延長約12kmの下水道管(内径1.1~3.8m)や約11万m³の貯留施設の整備、毎秒約70m³のポンプ施設の能力増強など多くの施設を整備しています。

赤丸で示す地域では、赤字の下水道施設を整備しており、浸水面積や浸水深が減少しています。

次ページに特に浸水面積や浸水深が減少している地域の拡大図を掲載しています。

城南地区河川流域浸水予想区域図(拡大図)

この拡大図は、城南地区河川流域の中で特に浸水面積や浸水深が減少している地域です。

左図が改定前(対象降雨: 1時間114ミリ)、右図が改定後(対象降雨: 1時間153ミリ)のシミュレーション結果です。

【大田区南馬込周辺】

大田区南馬込周辺では、馬込幹線(上流部)・馬込東二号幹線・馬込西二号幹線(直径2.2m~4.5m:延長約4.3km)が平成21年に完成しました。暫定貯留容量は約37,600m³あります。(学校のプール約120杯分に相当)



【品川区中延・西大井周辺】

品川区中延・西大井周辺では、第二立会川幹線(直径3.75m:延長約7.0km)が平成26年に一部完成しました。暫定貯留容量は約34,500m³あります。(学校のプール約110杯分に相当)



【大田区矢口・千鳥周辺】

大田区矢口・千鳥周辺では、矢口ポンプ所のポンプ能力を平成18年に毎秒約31m³ → 毎秒約45m³に増強しました。これは、約20秒で学校のプール1杯分の雨水を排水する能力を増強したことになります。

